

【下関港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書(目論見)の概要

応募者	下関市、MSCクルーズ社
国際クルーズ拠点形成の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・下関の優位性を活用した東アジアクルーズの拠点化 ・日本起点のクルーズの寄港地 ・フライ&クルーズの寄港地
寄港回数目標	運用開始年(2023年):120回 目標年(2035年):180回

係留施設の利用に関する考え方

・MSC社は旅客施設の整備・所有をすることにより、クルーズ船専用岸壁について、優先的な利用を認める。

優先的な利用予約できる日数:毎年最大100日

優先的な利用予約の存続期間:30年間

優先的な利用予約の実施時期:

係留施設を利用する日の前々年の1月1日から同年6月30日までの間に、係留施設の利用予約を行い、確定させる。

・係留施設を利用する日の前々年の7月1日以降の利用予約については、MSC社と他のクルーズ船社を平等に取り扱う。

■新港地区

○MSCクルーズ社が、東アジアの大型クルーズ船の受入拠点としての利用を予定。

◆岸壁(計画)<国>

20万トン級対応(計画)

◆旅客ターミナル(計画)<MSC社>

CIQ施設を含む旅客ターミナルを整備予定。

◆ふ頭用地<下関市>

下関港 新港地区



【那覇港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書(目論見)の概要

応募者	那覇港管理組合、MSCクルーズ(MSC社)、ロイヤル・カリビアン・クルーズ(RCL社)
国際クルーズ拠点形成の目標	東洋のカリブ構想の実現に向け、那覇港発着のフライ&クルーズの推進など国際クルーズの拠点化を図ることにより、質の高い世界水準の国際観光リゾート地の実現を目指す
寄港回数目標	運用開始年(2022年):108回 目標年(2030年):205回

係留施設の利用に関する考え方

・MSC社・RCL社は旅客施設の整備・所有をすることにより、クルーズ船専用岸壁について、優先的な利用を認める。

優先的な利用予約できる日数: 毎年最大250日

優先的な利用予約の存続期間: 30年間

優先的な利用予約の実施時期:

係留施設を利用する日の前々年の1月1日から同年6月30日までの間に、係留施設の利用予約を行い、確定させる。

・係留施設を利用する日の前々年の7月1日以降の利用予約については、MSC社及びRCL社と他のクルーズ船社を平等に取り扱う。

■新港ふ頭地区

○MSC社・RCL社が、東アジアのクルーズ拠点として優先的に使用予定。

◆新港地区12~13号岸壁

(22万トン級(計画))

◆旅客ターミナルビル<MSC社・RCL社>

○MSC社・RCL社がCIQホール、待合所、商業施設、観光案内所等を有する旅客ターミナルビルを整備



オアシス・オブ・ザ・シーズ

(22万トン級、全長360m
乗客定員5,484人)



MSCスプレディダ

(13万トン級、全長333m
乗客定員3,274人)

■泊ふ頭地区

◆泊ふ頭8号岸壁(既設)